

同名の部落が二つあつたが、明治に至り一を東三階、一を西三階と改めた。

ミカイウチ 三階氏 鹿島郡酒井永光寺に、康永三年三階七郎太郎家秀の寄附状がある。又文明十三年の文書に能登島向田代官三階家吉がある。鹿島郡三階の住人であらう。

ミカイセイベエ 三階清兵衛 前田利家に仕へて五百石を領した。子孫藩に世襲する。

ミカイトモナガ 三階與長 通稱伴右衛門。父七丞の遺知四百石を襲ぎ、大小將となり、後因幡御前御用人として五十石を加へ、享保十五年同御前物頭並に進み、元文二年御免、寛延二年二月廿七日七十八歳を以て歿した。

ミカイノゲンゴ 三階の源五 鹿島郡三階(今の西三階)の百姓。祖淺右衛門は越前朝倉氏の臣であつたが、主家滅亡の後本郡春木村に住し、天正二年歿した。二代平内、長連龍が鹿島半郡に入部した時馳走して重用せられ、四代源五の時寛文七年三階に移り、池島の後を承けて十村惣締役となり、扶持米三拾俵を得て北村氏を稱した。十一年その地前田氏の直轄となつた後、延寶二年持高之内登町八反百八拾歩を扶持せられることに改められた。この源五の子平内以後、代々源五・平内或は平九郎といひ、十村の職を勤めた。

ミカイヨシカハホ 三皆良川保 鹿島郡に在つた。承久三年注進の能登國田數目録に、『三皆良川保、拾八町二段八、元久元年檢注田定』と載せる。

ミカイヨシカハホ 三階良川保 鹿島郡に在つた。藩政時代では、盤若野・池崎・濱仁・川田・三階・三階(同名)・町屋・温井・瀬戸・伊久留の十ヶ村を含んで居た。

ミカツキニツキ 三日月日記 一冊。淺加久敬著。藩用を以て能登を巡回した紀行である。元祿九年卯月三日に出發し、歸宅の後水無月三日にこの稿を脱したから、題名をとつたものである。卷末に久敬軒山井とある。

ミカツキワタリ 三日月渡 白山尾添口の登路で、四ヶ塚山から上にある。渡りとは溪谷に添ふ山路で、宿雪路傍に堆く、その狀新月の如くなるが故に名づける。一に月輪渡とも龍月渡ともいふ。

ミカド 御門 河北郡英田郷に屬する部落。三州紀開に、御門村領の内田地に、帝御屋敷跡の由にて荒地少有之候。往古は皇居の由申傳候。』とあるのは、地名傳説に過ぎぬ。

ミカドイシ 御門石 鳳至郡志ヶ浦の磯邊に近い海中に在り、大きき四米四方許りで少し長みある眞石をいふ。鶴の石とも一つ石ともいふことがある。御門石といふは、御門主比古神社が部落内に鎮座するからであらう。

ミカドヌシヒコジンジャ 御門主比古神社 鹿島郡大町に鎮座する。能登名跡志に『此大町に御門主神社立給ふ。鶴浦村にもあり。いかにや。』とある。大町のもは御門主六所大明神といふたことがあるらしい。

ミカドヌシヒコジンジャ 御門主比古神社 鹿島郡鶴浦に鎮座する。

ミカドヌシヒコジンジャ 御門主比古神社 鳳至郡志ヶ浦に鎮座する。この附近は王朝の能登郡で、式の能登郡御門主比古神社であるといふ。式内等舊社記に、『御門主比古神社。式内一座。南北郷志加浦村鎮座。今稱熊野宮。或云熊野權現。』と見える。現在の社地は同村内から慶安二年に移轉したものであ

る。

ミカハ 美川 石川郡に屬する部落。もと本吉町であつたが、明治二年能美郡湊村を併して美川町とし、四年復び分離して本吉のみを美川町とした。美川の名は能美・石川の二字を取つたものである。同五年十一月に於ける美川町の町名には、未廣町(一名中濱町)和波町(一名未濱町)・濱町・今町・神幸町・永代町・北町・南町・新町・中町があつた。

ミカハコウ 美川港 手取川の河口にあつて、舊名を本吉湊といふ。暗礁砂洲なく、出入は北風に宜しく、南風に悪しく、冬季は舟を入れるに堪へぬ。

ミカキヤマ 御嶽山 鳳至郡東(部落名)を流れる町野川東方の山をいふ。能登名跡志に『古歌に、舟とむる岩瀬の渡り小夜ふけて御嶽山を出づる月影。宮崎山ともいへり。御嶽山をみかまき山と誤りていへり。岩瀬の渡の東の高嶺也。』と記する。この歌は夫木抄に見えて宮崎山とし、固より能登ではないのを、岩瀬とあるにつけて強ひて援引したものである。又同郡道下村と廣岡村との領界なる山を御嶽山といふとの説があるが、これも道下の神社に石瀬比古を附會する爲に言ひ出したものといはれる。

ミギ 右 江沼郡西庄に屬する部落。舊名は三木で、村内に御木神社があるから起つた。式内等舊社記には宮村とする。茨懸紀開には右村の前は古へ吉崎の入江から續いた湖水であつたことを載せるが、請け難い。

ミギンジャ 御木神社 江沼郡右小字堂谷に鎮座する。式内等舊社記に、『御木神社。式内一座。御木郷内宮村鎮座。今稱資船宮。』

御木村或爲「右村。」といひ、大日本史神祇志にはもと宮山にあつたのを、今の地に遷したとある。

ミギンジャユウテンコウ 御木神社邑傳考 一冊。江沼郡右に鎮座する御木神社の來歴を、邑民の口碑によつて記載したものである。

ミクニタウゲニアソフキ 遊三國續記 一冊。津田鳳卿著。著者が文化九年九月加賀・能登・越中三國の境なる三國嶺に遊び、附近の舊蹟を探つて、その傳説口碑を古記録に徴し考證したもの。漢文を以て記されてゐる。

ミクニヤマ 三國山 加賀・能登・越中の境界にある。寶曆の調書に、北より東は能州下河合村山、東より西の方は越中嘉例谷村山、南の方は加州興津村山だから三國嶺と唱へるとある。俚諺に、三尺の綱に繋いだ牛が三國の草を食むともいふ。高さ三三四米。地質第三紀層。

ミクニヤマジンジャ 三國山神社 河北郡羽咋郡及び越中西彌波郡の界上三國山の嶺に鎮座した。式内等舊社記に、『三國山神社。英太郷三國山鎮座。祭神大山祇命。加賀能登越中八箇村之守護神。故社殿八箇村邑民修之。舊社也。』とあり、その八ヶ村は河北郡八谷・池原・興津・羽咋郡上河合・下河合・瓜生・牛首・彌波郡水島村であつたが、今は社殿を存せぬ。

ミクリンメイシヤ 御厨神明社 鹿島郡能登島の野崎に在つたが、今は存せぬ。式内等舊社記に、『御厨神明社。能登島地野崎村鎮座。舊社也。』とある。

ミクリヤシマ 御厨島 鳳至郡の海上に在